

マンツーマンについての質問への回答

早速の伝達、ありがとうございます。質問のあった件に関して回答いたします。

マッチアップエリアについて

①マッチアップエリアは、オフェンスがマッチアップエリアの中にいない場合は、1.5m以上離してよいのか？
(ハーフコートオフェンスの時、オフェンスがマッチアップエリアに入っていないので1.5m以上離しても良いと考える。ハーフコートディフェンスは3ポイントぐらいにオフェンスプレーヤーが入った時にのみ適応されると考える。)

⇒その通りです。ただし、他のプレイヤーが1.5m以内でタイトについている中、そのプレイヤーだけが下がってルースについている、あるいは完全に場所を占めていると、コミッショナーから見てマッチアップしているようには見えなと思います。ご注意ください。

赤旗について

②マンツーマンに違反している現象が、見られたら黄色の旗をあげるが、その行為を指導者が指導しても続く場合は何回くらい行われたら赤旗なのか、(悪質なものは別として、3回ぐらいで赤旗と考える。)

⇒基準規則、運用についての中には回数に関する記述は一切ありません。北海道としての手引きの中では瞬間的な動きの中で早急にあげず観察するというようにしていますが、基本的には黄色で改善されない場合、次は黄色→赤をあげることとなります。

ちなみに、昨年の全国大会では「黄色から赤への判断は5秒程度」というタイミングであげていました。全国では1試合につき4回程度の黄色旗、およそ4試合に1回のペースで赤旗、テクニカルは17試合に1回というペースでした。

③赤旗2回目が挙げられたときは、テクニカルファウルで2回のフリースローとボール保持を認められますが、同じようなケースで3回目の赤旗の時の処置は、どうなるのか？(すぐにテクニカルファウルと考え、フリースロー2本とボール保持と考える。)

⇒その通りです。テクニカルファウルを取られたからといってリセットされるわけではありません。「2回目以降はテクニカルファウルになる」ととらえてください。そうなる前に改善してほしいものです。完全なる技術不足の場合は除きますが。

(※確認：何回目であっても、一発赤旗の事例を除き<黄色→赤>というあげ方は変わりません。)

また、3回目赤旗をあげた時、前に2回赤旗をあげられたケースと違う違反があった時にはどうするのか、(ケースが違う場合でも違反なのですぐにテクニカルファウルが適応されると考える。)

⇒その通りです。ケースの種類、誰が違反を犯したかは関係ありません。あくまでもあがった数によります。

④2回の旗があがったら 報告するのか どのくらい悪質な場合は報告するのか？（赤旗をあげてもコーチが指導しない、コミッショナーの言うことを聞かないなどのコーチとして不適切である行為のみ報告すると考える。）
コーチが指導しても、なかなか改善されなくて赤旗が2回あげられテクニカルファウルが起こった時には、報告する必要ないと思う。）

⇒その通りです。テクニカルファウル＝特記事項（報告）ではありません。この場合はやはり改善を促す警告に従わない、反論をしてくる等の、コーチとして真摯な態度で受け止めてくれない場合に限っていいのではないのでしょうか。あまりいいとは思いますが、発生した際には毅然とした対応をお願いします。

オフボールの予測に基づくトラップについて

⑤エンドスローの時に ゴール近くにポジショニングしたビックマンがボールを受けそうなとき、ボールだしについている選手が、オフボールのビックマンにトラップをしていいのか（予測に基づき行っているのでOKと考える。）

⇒これがまさしく今回のU-12、U-15共通の変更点③に当たります。OKです。もちろん他の選手についている選手がトラップに行ってもかまいません。現段階では「誰が行ってよい」、「誰は行ってはいけない」という限定はありません。ただし、制限区域内に限ります。

⑥また、もしよいのであれば、エンドスローの場面、予測に基づきオフボールマンにトラップしていい状況はどのような時か教えていただきたい。（全道のコミッショナー会議では、いくつかあると言われていたので・・・）

⇒考えてみましたが、それ以外は今のところ他に思い当りません。何しろ制限区域内においてという限定付きですから。全国マンツーマンディレクター会議でもこれ以外は話として出てきませんでした。もしレアなケースが出てきたら教えてください。

⑦通常のハーフコートオフense時（エンドスローでない場合）に、ポストのビックマンにボールを入れると予想した選手がトラップを準備し、近くにいることは可能か？（予測に基づいて行動しているのでOKと考える。）

⇒「近くにいる」という表現だと厳しいと捉えます。「ダブルチーム」と「トラップ」の用語の違いについて整理してください。

⑧また、通常のハーフコートオフenseでボールがもしビックマンに入った時のために すぐにトラップを仕掛けられるような場所にいて準備しておくことは許されるのか？ もちろんマンツーマンディフェンスを意識している選手が予測に基づいて行った場合（予測に基づいて行動しているのでOKと考える。）

⇒⑤・⑥・⑦とも関連しますが、U-12の変更点はあくまで制限区域内においてという限定付きです。従来認められている「バスケット方向にカットしてきたオフボールのプレイヤーをトラップすること」については変更ありませんが、U-15の変更点と混同し、無制限に「予測に基づいて」ということになると改訂の趣旨に反します。あくまで制限区域内限定という押さええてください。「予測に基づいて」という表現自体も極めてあいまいで、拡大解釈を招くと危惧しているわけですが、U-15の変更点の中でも、

①マンツーマンを行っている（＝マッチアップをしている）という前提において

②「予測に基づく」とは、予測の根拠となる動きがあることを示す

③マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため認められない

という条件が明記されています。また、制限区域内（制限区域付近ではありません）にいるビッグマン（→ポストアップしているプレイヤー）に対するトラップですが、そもそもそのオフENSEのプレイヤーには3秒オーバータイムというルールがあることもお忘れなく。

⑨また、通常のオフENSEで、何回もビッグマンにパスを入れオフENSEしてくるチームに対して、予測に基づきディフェンス側の選手がビッグマンに寄ったディフェンスになる事があると思うがそれは予測に基づき行っているマンツーマンディフェンスとしてとらえられるのか？（オフENSE側の選手の誰が攻めてくるのかわかる場合 アイソレーション的な場合なのでOKであると考える。）

⇒「何度もインサイドにボールを入れてくるから」ということは、予測の根拠として成立しないのではと思われる。前述しましたが、「予測に基づいて」とは「予測の根拠となる動きがある」ということであり、それまでインサイドに入れ続けたということが「根拠となる動き」とは言えません。また、インサイドにボールを入れてくることとアイソレーションとを直接結び付けるというのもし疑問が残ります。

⑩アイソレーションでなくても、繰り返し2対2で攻めてくるのがわかっていてそれに対して予測し、準備して待っていることが有効か？（2対2で攻めてくるのがわかっているのでアイソレーションと同じと考えでマンツーマン違反は適応されないと考える。）

⇒ほぼその通りと思います。1人だけで攻めてくるのと、2人だけで攻めてくることには、4人が攻めに参加しないか3人が攻めに参加しないか程度の差であり、やはり育成としての観点では全員で攻撃し、全員で守るバスケットであるということを皆さんで目指しませんか。

ただし、連続的、継続的なアイソレーションオフENSEオンリーからは「ゾーンであるかどうかを判断する情報が得られない」ということであり、「準備して待っていてもいい」ことがイコールかどうかという一点について疑問が残ります。指導としては、「じゃあ、トラップに行っちゃえ」という積極的なプレーが望まれるところだと思います。